

鼓澄苑と地域との連携推進会議の議事の概要

1. 日 時 令和8年7月24日（金） 午後1時25分～午後3時00分

2. 場 所 障害者支援施設 鼓澄苑（1階相談室）

3. 出席者 外部委員

舩田 美保 【利用者の成年後見人】

林 靖彦 【利用者の家族】

石田 準二 【地域の関係者（民生児童委員）】

小笠原 明美 【福祉に知見のある方（苦情解決第三者委員）】

高木 義則 【経営に知見のある方（社会保険労務士）】

施設職員

中尾 雄二 【鼓澄苑長】

田中 雅之 【副苑長兼看護・支援部長】

白石 俊則 【総務部副部長】

4. 会議の次第

- (1) 要綱の説明
- (2) 自己紹介
- (3) 鼓澄苑の概要説明等
- (4) 苑内の案内
- (5) 意見交換・質疑

5. 意見交換・質疑

- (1) 入所者とのやりとり

苑内を案内する中で、入所者の居室においてやりとりを行った。

※普段は温厚に会話のできる方ですが、普段見かけない方に話しかけられて、大変、緊張されていた様子。

外部委員：苑での生活はいかがですか。

入 所 者：外出するのが楽しいです。

外部委員：どんなことが楽しいのですか。

入 所 者：この間、ドーナツを三個食べたのがおいしかった。

外部委員：最近頑張っていることは何ですか。

入 所 者：リハビリで、歩いている。折り紙をしている。

⇒部屋の壁の折り紙作品を見て、ほめてもらったことに、
笑顔が見られた。

(2) 家族会からの意見

コロナ前は全員参加の会議を開催していたが、それ以降は開催なし。

総会資料は送付のみで、家族の意見を聴取できていない。

また、大勢が集合するのが難しいのは理解する。代替の場（別施設等）の可能性も含めて家族会の集まり方を検討している。入所者の入れ替わりで顔と名前が一致しない状況が不安とも話された。

⇒（苑から）入所者の安全第一を優先事項として、感染対策に配慮した支援を検討していく。

(3) 入所者の外出・外泊について

（外部委員から）コロナ前は、個人で外出し、買い物等を楽しんでいた。現時点では個人での外出は難しいのか。

⇒（苑から）個人での外出は難しいが、時間制限はあるが家族との外出と平日に限り1泊2日の外泊は可能である事と、昨年度から、行きたい場所を聞いて苑外活動を充実させている。

(4) 職員からの要望等への対応について

（外部委員から）職員の意見を吸い上げて施策化することはされているのか。

⇒（苑から）毎年4月に「職員満足度調査」を実施し、職務満足や現状等の声を収集している。また、意見箱の設置や個別面談等で意見を聞いている。

（外部委員から）施設を案内されている時、利用者と話すことで表情が変化する様子を観察できた。日常的に職員が利用者に関り、コミュニケーションをしているからこそその反応だと感じた。との評価あり。

(5) 地域移行について

（苑から）国の施策として、利用者の意思に基づいた暮らし方について、自宅や他施設、グループホーム等の地域での生活が推進されている。しかし、入所者は重度の方や家族の事情で入所されていることから現実的には難しい側面がある。

⇒（外部委員）完全に諦めず「どこまでならできるか」を探る姿勢が重要。引き受けてくれる人・機関と積極的にコミュニケーションを取り、家族とも連携して進めることで効果が見込める。

一人でも成功事例が出ると、周囲が「できるかもしれない」と前向きになりやすい。

以上

(注)

⇒議事の概要及び写真を掲載することについては、各委員の
了解を得ています。

会議中の様子



会議中の様子



施設内の見学



入所者と外部委員とのやりとり

